
ドルク達の冒険

さき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドルク達の冒険

【コード】

N8008Q

【作者名】

さき

【あらすじ】

世界を救った英雄達の未来や過去の事も分かります。

第1わ（前書き）

凄い短いです。

第1わ

???「バトーナとリーダー会ってから二年ごたちました」

ドタイス「俺も懐かしいな久しぶりの街です。」

ルカリオ「いつもの再開ですよこういう時で。」

スイクン「久しぶりです。ドルクさんカクテさん。」

ドルク「何日ぶりだよ。スイ」

カクテ「二年ぶりだよ。忘れてないよあの時の事は忘れてないよ。約束通りだから。」

スイは過去のポケモンでドルク達の手助けをする為にこの世界にいるのだ。

ドルクは未来のポケモンでこの世界にきたポケモンですよ。

カクテは臆病と育児無しにが会ったげと今はないのだ。そう勇気が会ったのだヨノワール戦で臆病が無くなったのだ。遺跡のかけら持ち。

セレビイ「あなたのお陰ね。」

レピイは時渡りを使えるポケモンです。

ジャプ「ふん。」

ジャプは未来のポケモンです。ドルクの大切な方かな。

皆さんは冷たいですが。優しいですよ。

第1わ（後書き）

???「バトーナとリーダー会ってから二年ごたちました」

ドタイス「俺も懐かしいな久しぶりの街です。」

ルカリオ「いつもの再開ですよこういう時で。」

スイクン「久しぶりです。ドルクさんカクテさん。」

ドルク「何日ぶりだよ。スイ」

カクテ「二年ぶりだよ。忘れてないよあの時の事は忘れてないよ。約束通りだから。」

スイは過去のポケモンでドルク達の手助けをする為にこの世界にいるのだ。

ドルクは未来のポケモンでこの世界にきたポケモンですよ。

カクテは臆病と育児無しにが会ったげと今はないのだ。そう勇気が会ったのだヨノワール戦で臆病が無くなったのだ。遺跡のかけら持ち。

セレビィ「あなたのお陰ね。」

レピィは時渡りを使えるポケモンです。

ジャプ「ふん。」

ジャプは未来のポケモンです。ドルクの大切な方かな。

再開

あの被害から二年後の物語です。 誰もか親愛したドルクのバトナと仲間達いつかの出会いと再開のために頑張ります。

スイは再開したものの誰より優しく強くそれがドルクとその仲間達であるラースいつまで平和にするために頑張ります。

いつかの再開との出会いそして強いはずのスイ、彼女は二年前に世界を救った英雄だと皆さんは言いますそして全ての存在を助ける為に誰かの為にスイは頑張り世界を救いました。 そのために世界を救った英雄でもあるスイはなんと有り得ない所からきでいたそれは小説呼ばわ分かる内遊だったです。

第2わ 世界を救った英雄

今回は英雄を救った英雄を集会しました
スイとドルクがかなり集会されます。

スイは幻の大地に誘いました。ドルクは星のていしを食い止めました。後しぐうの歪みを止めました。そしてドルクは嫌いな人がどうしようかな。カクテは嫌いな人を嫌いだし、臆病と育児無しがなくなりました。
私は寂しい

楽しかったあの時はセレビィとジャブトルは楽しかったかな

寂しかった

あの時は寂しい。いつまでも変わらなかった

私達は変わらなかった。

寂しくなるかな。

いつまでも変わらなかった。私は変わらなかった。
私は絶対に後悔をしたくなかった。

絶対に嫌だ。

きつとう私は後悔をしないから。

第2わ 世界を救った英雄（後書き）

あれ キャラ紹介になっている。

第3わ 迷惑

あまりにも新技水の波動

あれは強くなり過ぎる。

私が悪いわけですからいいし、怖い。

戦争が起きないから安心できる。

ドルクの過去を紹介

まずはドルクの過去をキルド全員知っていないので、ドルクから。ドルク「カクテの出会いとは二年前でした。そのときは自己紹介をしている時にトクローズに会ってな遺跡のかけらをむすんでいたが。

そのときはトクローズは最悪な出来事が起きた。

トゲトゲ山でスリーブを倒したときは殺気が感じた。

それがユクシーとの出会いだった。ユクシーは過去を語ってくれた。

「

詳しくわかりたいならユクシーの過去をみて下さい。

ドルク「滝壺の洞窟にソウと出会った。

そして最悪な事が起きたヨノワールが未来から俺とジャブトルを完全に倒す為に俺は未来につらされた。

後は皆にはわかっているから話さない。」

長い話をきいたら私は話を続けました。

次はソウの過去です。

ソウ「僕はドルクとカクテさんにあった時は危険な状態になっていました。

詳しくわかりたいならカクテさんにきいて下さい

師匠が助けってくれでいなかったら僕は後悔をしていました

あの時助けて欲しかった

後は師匠と同じ事です。

あの時は後悔をしました。あのまましぐうホールに入っていたし
まったから。

強くなりなりたいです。」

第3わ 迷惑（後書き）

つらい過去を話す二人でした。

第5わ バトル

ドルクはバトルのひは一番強いネクとガザリの過去

ネク「わたしは親をなくし、友達と一緒にいったの。

寂しかった。」

ガザリ「確か、あの時から嬉しかった。

私にも友達できるって。でもお母さんは信頼をなくした。」

作者はむすみききです。

確かに私のせいで弱くなったから。

さすがわに後悔をしました。

私はあの時水のしまに入ってしまったから。

つらそう。私はけます勇氣がなかった。私は何って、喧嘩ばかりしまくって。

私は人の気持ちをわかろうとした。

でも私は解らなかった。戦争を止めたり争いを止める。それが使命でもあり仕事だったから。

私には一生人の気持ちをわかるようになりたい。強くなりたい。

私が起こした。事件の償いたい。

私はなんてばかな事を下のかな。

私が弱かったら事件は一生起きまくる。

第5わ バトル（後書き）

後悔しまくっています。

第6巻 友達と共に

あれから二年もだった。

あいつは元気だろう。

俺を未来にいざなった張本人はユクシーだ。

ユクシーの過去は悔しい、使命だったからやるした。

俺は絶対に倒れなくなかった。

あの時は俺は止めようとした。

ユクシーが、かつてるポケモンではないのに行ってしまった。

ディシアとバルサの事だ。

勝ってなかった。帰ってきただと思っていたら、勝っていました。

使命を果たす為に。

負けたくないかったあんなやつに勝っていても。

使命を果たせなかった。

だから友達と共に俺は戦う。

二度とユクシーと戦わくしなかった。

強くなっても、俺は負けるに決まっています。

絶対にかつと決めたから。

まあ強くなったから。

勝ってないかな。

第6わ 友達と共に（後書き）

楽しいと仲間が

第8わ 出会い（前書き）

遅れてごめんなさい

第8わ 出会い

嬉しいよ。

君に会えたから。

いつかは会えないじゃないかと思うひがくるじゃないかと思いました。

後悔はしないよ。

だって大切なあなただから。

君と会えたなかった日の分の話をやりたいよ。

だって君の事を好きだったから。嬉しかったのはあの日以降はなかった。

ドルクと会えて良かった。

未来は一体大丈夫だろうか。

安心ができないな。

だって怖いから。君と会えて嬉しかったよ。だから君は嬉しかったと思うよ。未来は危ないから出会ってなかったら過去はどうなっただけだろうか。

第8わ 出会い（後書き）

好きな好みですが。教えません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8008q/>

ドルク達の冒険

2011年6月9日12時40分発行